

上田市文化財調査報告書第36集

# 下之郷古墳群Ⅱ

下之郷古墳群第70号古墳・第81号古墳発掘調査報告書  
付 第63号古墳現況調査

1990年3月

上田市教育委員会  
長野県土地開発公社

## 序

上田市の南西部に位置する下之郷古墳群は、昭和62年度(1987)年の分布調査により、40基余りの古墳が現存することが確認され、県内でも有数の古墳群であることが判明しました。また当地は『信州の鎌倉』といわれる塩田平を一望する好地であり、国指定重要文化財「武田信玄の起請文」でも有名な生島足島神社の御柱を切出す山として、上田市ばかりでなく、信濃国の歴史を解明する上で、きわめて重要な地域です。

このたび、この下之郷地区に浅間テクノポリス構想の一環である上田リサーチパークが建設されることとなり、上田市教育委員会では昭和62年から足掛け3年にわたり、県・市の開発関係局及び上田市文化財保護審議会の先生方をはじめとする研究者各位、県教育委員会文化課の指導主事の方々と協議を重ねてきました。その結果、事業地区内に存在する6基の古墳のうち、4基については現状保存となり、特に、市の指定文化財となっている他田塚古墳、塚穴原1号古墳及び2号古墳は周辺1万㎡を史跡公園として整備することになりました。今回ここにご報告するのは、古墳の残存状況が悪く、事業の計画と照らして記録保存もやむを得ないという結論で調査を実施した2基のものです。

現在、リサーチパーク建設事業は着々と進み、新しい工業都市が生まれつつあります。当地域には今後も各種の開発計画が練られていますが、現代に生きる私たちが、将来にのこすべき遺産について、また新たな感慨を起さずにはおられません。

最後に、今回の調査に御尽力いただいた調査団長の五十嵐幹雄先生をはじめとする諸先生方、古墳の保護について熱心に御協議くださった関係各位に心から御礼申し上げ、序といたします。

平成2年3月25日

上田市教育委員会教育長 赤羽 稔

## 例 言

- 1 本書は長野県上田市大字下之郷における上田リサーチパーク造成事業に伴う、平成元年度下之郷古墳群第70号古墳・第81号古墳の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、上田市教育委員会が上田市文化財保護審議会委員五十嵐幹雄氏を調査団長として、下之郷古墳群発掘調査団を編成し、調査を委託して実施した。なお、調査団事務局は上田市教育委員会事務局社会教育課が担当した。
- 3 発掘調査は遺物整理、報告書刊行までを含めて1989年（平成元年）4月3日から1990年3月25日まで実施した。
- 4 遺構の実測は塩入秀敏・倉沢正幸・中沢徳士・塩崎幸夫・河上純一・大原宏枝が行い、一部を新日本航業株式会社に委託した。また、トレースは中沢・久保田敦子・田中弥重子が行った。
- 5 遺物の実測は中沢が行い、トレースを中沢・久保田が行った。
- 6 本文の執筆、実測図、写真図版の版組は中沢が行った。
- 7 遺構の写真撮影は中沢・塩崎・新日本航業㈱が行い、遺物の写真撮影は中沢が行った。
- 8 本調査に係る基準点・標高の測量は新日本航業㈱に委託して実施した。
- 9 遺物の復元は中沢・清水関二が行った。
- 10 調査に関わる資料は上田市教育委員会の責任下、上田市立信濃国分寺資料館に保管してある。
- 11 本書の編集作業は中沢が行った。
- 12 本調査にあたり次の方々に御指導、御協力、御助言を頂いた。記して感謝する次第である。  
地元下之郷自治会、岩崎卓也、長野県教育委員会文化課、長野県商工部振興課、上田市商工部商工課・総務部企画課、上田市文化財保護審議会の先生方（順不同、敬称略）
- 13 本調査に係る下之郷古墳群発掘調査団の構成は次のとおりである。  
調査団長 五十嵐幹雄（日本考古学協会会員、上田市文化財保護審議会委員）  
調査員 小林幹男（日本考古学協会会員、前長野県屋代高等学校校長）  
〃 岩佐今朝人（日本考古学協会会員、上田小県誌考古編纂副主任）  
〃 塩入秀敏（日本考古学協会会員、上田女子短期大学助教授）  
〃 猪熊啓司（日本考古学協会会員、長野県長野高等学校教諭）  
〃 川上元（日本考古学協会会員、社会教育課課長補佐兼文化係長）  
〃 中沢徳士（社会教育課学芸員）  
〃 塩崎幸夫（社会教育課主事）  
〃 久保田敦子（社会教育課主事）  
事務局長 三輪善方（社会教育課長）  
同次長 川上元（社会教育課課長補佐兼文化係長）

事務局員 中 沢 徳 士 (社会教育課学芸員)

塩 崎 幸 夫 (社会教育課主事)

久 保 田 敦 子 (社会教育課主事)

14 発掘・整理作業に参加、協力していただいた方々

河上純一 (調査補助員)、小泉好武、堀内今朝次、関茂樹、大原宏枝、田中弥重子、堀内節子、清水関二 (順不同、敬称略)

## 凡 例

### 遺 構

- 1 遺構図版の版組は国家座標の北を基準に行ったが、紙面の都合により例外もある。
- 2 遺構図版の縮尺は原図1/10、1/20、1/40を使用し、縮尺1/3を基本とした。
- 3 古墳の主軸方位は、国家座標の北と古墳の主軸方向のなす角度で示した。
- 4 遺構断面図の標高は、全てm単位で示した。
- 5 遺構の層序説明は本文中に記し、色調は農林省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版 標高土色帖』1988年を用いて判別した。
- 6 古墳群分布図の番号は一覧表の番号と一致している。
- 7 一覧表の備考欄に記した番号と古墳名称は『上田市の原始・古代文化』に記載されたものである。
- 8 下之郷古墳群の概要については、1988年上田市教育委員会発行の『下之郷古墳群』を参照されたい。

### 遺 物

- 1 遺物図版は原図実測大とし、縮尺1/3とした。
- 2 土器の実測方法は4分割法を用い、右側に1/2断面及び内面を、左側1/2に外面を記録した。法量の単位はすべてcmであり、明確でない場合は ( ) で示した。
- 4 出土遺物一覧表の器質は、胎土を「胎」、焼成を「焼」、色調を「色」と記載した。なお、色調は農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』1988年を用いて判別した。
- 5 遺物番号は実測図版番号及び写真図版番号と一致している。

## 本文目次

序	
例言	
凡例	
第一章 序説	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査の経過	1
第3節 調査日誌	2
第二章 遺跡の立地	3
第1節 遺跡の環境	3
第2節 遺跡の位置	6
第三章 調査の結果	7
第1節 第70号古墳の調査	7
(1) 遺構	7
(2) 遺物	11
第2節 第81号古墳の調査	12
(1) 遺構	12
(2) 遺物	12
付編 第68号古墳の調査	17
(1) 遺構	17
(2) 遺物	18
写真図版	25

## 表目次

第1表 下之郷古墳群周辺遺跡一覧表	5
第2表 第70号古墳出土遺物一覧表	11
第3表 第68号古墳出土遺物一覧表	18
第4表 下之郷古墳群一覧表	22

## 図 版 目 次

第 1 図	下之郷古墳群周辺遺跡分布図	4
第 2 図	第70号、第81号古墳の位置	6
第 3 図	第70号古墳実測図（調査前）	8
第 4 図	第70号古墳トレンチ配置及び土層図	9
第 5 図	第70号古墳実測図（調査後）	10
第 6 図	第70号古墳出土遺物実測図	11
第 7 図	第81号古墳実測図（調査後）	13
第 8 図	第81号古墳土層図	16
第 9 図	第68号古墳実測図	17
第10図	第68号古墳出土・表採遺物実測図	18
第11図	第68号古墳トレンチ配置及び土層図	19
付 図	下之郷古墳群分布図	

## 写 真 図 版 目 次

P L. 1	下之郷古墳群遠景	26
P L. 2	第70号古墳調査前	27
P L. 3	第70号古墳調査前（天井石等除去後）	27
P L. 4	第70号古墳調査（天井石等除去後）	27
P L. 5	第70号古墳出土遺物	28
P L. 6	第70号古墳調査後	29
P L. 7	第70号古墳調査後	29
P L. 8	第81号古墳調査後	30
P L. 9	第68号古墳現況	30
P L. 10	第68号古墳Tr-1土層	31
P L. 11	第68号古墳Tr-2土層	31
P L. 12	第68号古墳Tr-4土層	31
P L. 13	第68号古墳出土遺物	31
P L. 14	下之郷古墳群遠景	32

# 第一章 序 説

## 第1節 調査に至る経過

昭和62年度、浅間テクノポリス構想の一環である上田リサーチパーク建設計画策定に当り、その事業予定地内に散在する古墳群の分布調査を実施し、結果については同年度発行の『下之郷古墳群』に報告した。その後昭和63年度には、いよいよ同事業の計画が策定され、同時に事業予定地にかかる古墳群の保存が議論された。昭和63年5月13日には長野県商工部振興課・長野県土地開発公社・上田市商工部商工課・同総務部企画課・上田市教育委員社会教育課及び上田市文化財保護審議会の間で保護協議がもたれ、されに8月24日には同メンバーに長野県文化財保護審議会委員の岩崎卓也筑波大学教授と長野県教育委員会文化課を加え再度の協議を実施した。その結果、上田市指定文化財の他田塚古墳（61号墳）・塚穴原1号墳（62号墳）と同2号墳（63号墳）については、周囲約1haを史跡公園『いにしへの丘』として現状保存し、保存状態の良い上雲雀1号墳（68号墳）は分譲地内に現状保存することで結果をみた。一方、岩崎教授から上雲雀2号墳（69号墳）と大平1号墳（80号墳）については、その立地環境から古墳であることが疑わしいとの指摘を受け、同年10月17日に発掘調査を実施したところ、古墳である確証が得られなかった。そして、今回ここに報告する上雲雀3号墳（70号墳）と大平2号墳（81号墳）については、古墳の残存状態が悪いため、発掘調査のうえ記録保存をはかる、ということで合意した。この他、昭和48年の上田市の埋蔵文化財分布調査報告書である『上田市の原始・古代文化』に、すでに湮滅したと報告される塚穴原3・4号墳（64・65号墳）・入雲雀1・2号墳（73・74号墳）については工事立会いとなった。

平成元年4月3日、開発主体である長野県土地開発公社と上田市の間で上雲雀3号墳（70号墳）と大平2号墳（81号墳）の発掘調査について委託契約が締結される一方、上田市教育委員会ではあらたに下之郷古墳群発掘調査団（団長五十嵐幹男）を編成し調査を委託、4月6日調査団会議を開催し、調査の方法等について協議し、4月10日、調査現場へ機材等を搬入し調査に着手した。

## 第2節 調査の経過

4月10日、調査団は第70号古墳の調査に着手した。詳しくは第三章に述べることにするが、この古墳の周囲は雑木に覆われており、調査に着手する前にこの雑木の伐採に3日を費やした。そして古墳の周溝の確認やマウンドの範囲の確認のため現存する奥壁と側壁を中心に周囲に4本のトレンチを設定し、その一方で古墳の前庭部と推される箇所には散在していた天井石や側壁の除去

をチェーンブロックで行った。この間には現状実測を専門業者に委託して実施している。その後、石室内の調査を行い、5月15日には調査後の遺構測量を専門業者に委託して実施し70号古墳の調査を終了した。

第81号古墳の調査は4月末から70号古墳の調査と並行して着手した。この古墳の周辺にも雑木が生えており、この伐採から着手した。81号古墳は遺存状態が著しく悪く、古墳であった遺構や遺物の検証ができないまま5月16日調査後の測量を専門業者に委託して実施し調査を終了した。

なお、調査の間を縫って工場宅面の緑地帯に遺される68号古墳の現況実測と周溝の確認を含めた範囲確認調査を実施している。

現場調査はこの様にほぼ順調に進捗し、この後信濃国分寺資料館と埋蔵文化財整理室で遺物整理と報告書作成を行い、平成2年3月25日調査報告書を刊行して全ての調査事業を終了した。

### 第3節 調査日誌

平成元年

4月10日 調査現場に機材を搬入し第70号古墳の調査に着手する。まず雑木の伐採から行う。

4月13日 第70号古墳の周囲にトレンチ設定。

4月18日 専門業者による現況測量。

4月19日 チェーンブロックによる崩れ落ちた天井石・側壁の除去

4月20日 石室内にセクションベルトを設定し、表土を除去していく。

4月21

～28日 石室内精査

5月1日 第81号古墳調査着手。古墳のプランを把握するためトレンチを設定する。

5月8日 トレンチを順次広げながら表土を除いていく。

5月15日 第70号古墳完掘、専門業者による遺構測量

5月16日 第81号古墳完掘、専門業者による遺構測量

）

平成2年 遺物整理作業、報告書作成作業

3月25日 報告書刊行



## 第二章 遺跡の立地

### 第1節 遺跡の環境

今回調査した下之郷古墳群第70号古墳・第81号古墳の所在する「上田市下之郷地区」は、小牧山塊の西側部であり、塩田平の東方に位置しており、通称「東山地区」と呼ばれている。

小牧山塊はほぼ平行四辺形に似たブロック状の山塊で、北西から南東方向に走る二つの山脈からなり、その中央に凹地があり須川湖をつくっている。北斜面は急でその先端は千曲川に臨む断崖となり、東側面は中腹に尾野山の平地をおき、その先端は依田川に切られている。西側面から南側は緩い傾斜面となり、南側面の中央に二木峠(標高580m)があり、西南側面と東南側面とに分けている。東山地区は小牧山塊のうち西側面と西南側面の緩い傾斜面に位置しているといえる。

西側面のうち、その北部は上田市城下地区に面しており、尾根上から中腹及び山麓にかけて、多数の古墳のあることが知られている。この傾斜面につき西側傾斜面から西南傾斜面、すなわち東山地区一帯にも数多く古墳のあることが早くから知られ、多くの先学によって、調査報告されている。

東山地区の面する塩田平は千曲川左岸にあり上田盆地の西半部となっている。北は千曲川に向かって広く開けているのに対し、南に独鈷山脈があり、その西端から北へ川西丘陵が廻って境し、独鈷山脈の東端から北へ向かうのが小牧山塊であり、したがって塩田平は北に開け、他の三方は山地に囲繞され、東北の幅に対し南北が長く、その面積およそ数千平方メートルといわれている。

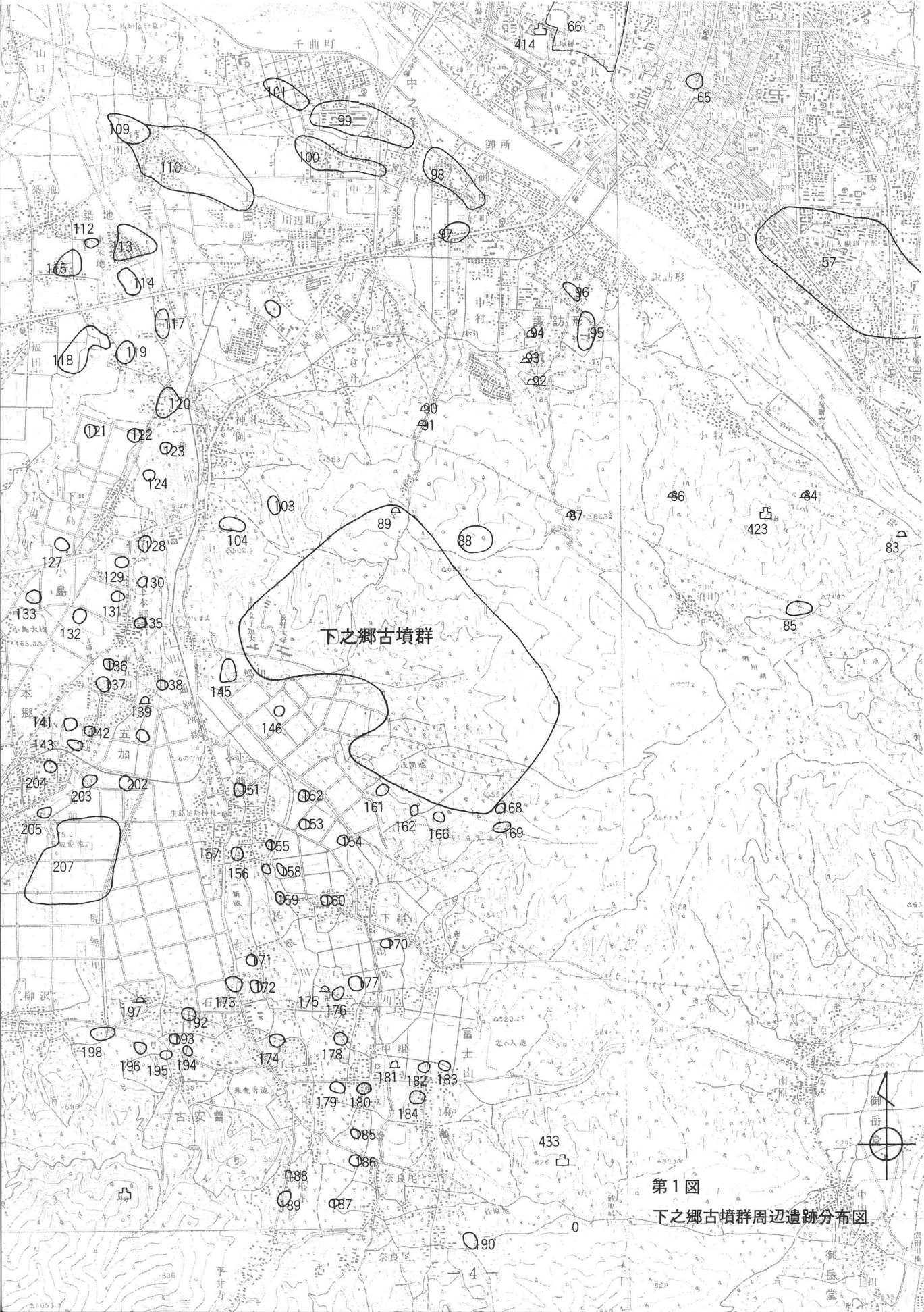
この平地に大して東部には砂礫質壤土の尾根川、中央部では砂質壤土の産川が、西部では強粘土質の湯川がそれぞれ北流している。このうち最も大きな水系は産川であり、その砂壤土が、他の土壤面に堆積し、塩田平の大部を占めている。

この様な塩田平には旧石器時代の遺物はいまだ知られていない。

縄文時代では塩田平の西南隅にあたる別所温泉の南上方に位置する「塩水」遺跡で縄文前期の茅山式土器に比定される遺物が採集されるのが最古のものである。中期になると、三つの側縁の山麓扇状地をはじめ開析された平地に数多くの遺跡が知られている。ことに産川流域のうち西塩田地籍の手塚区から十人区に亘っては、検田見遺跡をはじめとする大規模な遺跡が知られている。そしてその北端千曲川段丘上の上田原、塚原遺跡まで塩田平全域に亘って知ることができる。

縄文時代後・晩期の遺跡については塩田平に西隣する浦里地籍の下前沖遺跡が知られているが、いわゆる塩田平では明確に知られていない。

弥生時代になると再度、塩田平には多数の遺跡が散在している。ことに産川流域では、土地の平らなこと、堆積土が肥沃な砂質土壤であることから原始稲作に適することから大規模な遺跡が



下之郷古墳群

第1図

下之郷古墳群周辺遺跡分布図

第1表 下之郷古墳群周辺遺跡一覧表

遺跡	遺跡名	遺跡の時代	
057	常入遺跡群	縄文～平安	
065	海野遺跡	弥生・平安	
066	上田城跡	近世	国指定史跡
083	坂下古墳	古墳	全壊
084	六匂古墳	古墳	全壊
085	花水遺跡	平安	
086	初太郎古墳	古墳	
087	タタラ塚古墳	古墳	上田市指定文化財
088	舟窪古墳群	古墳	5基
089	原畔古墳	古墳	僅かに残る
090	日天塚古墳	古墳	僅かに残る
091	月天塚古墳	古墳	全壊
092	上平古墳	古墳	
093	森の木1号古墳	古墳	
094	森の木2号古墳	古墳	
095	浜取田遺跡	縄文	
096	中沢遺跡	平安	
097	横塚遺跡	平安	
098	木の下遺跡	弥生～平安	
099	千曲高校遺跡	弥生～平安	昭和51年調査
100	西前田遺跡	平安	
101	天神堂遺跡	弥生～平安	
102	霞原竈址	平安	
103	堀切遺跡	平安	
104	惣明遺跡	縄文・弥生	
109	塚原古墳群	古墳	5基全壊
110	上田原遺跡	縄文～弥生	
112	宮脇遺跡	弥生・平安	
113	堀之内遺跡	縄文・平安	
114	太田遺跡	弥生	
115	宮島遺跡	縄文～平安	
117	手矢塚古墳	古墳	3基、2号古墳完存
118	反田遺跡	平安	
119	西村遺跡	古墳・平安	
120	可村遺跡	縄文～古墳	
121	菱池遺跡	縄文～平安	
122	北山越遺跡	平安	
123	起遺跡	平安	
124	植田遺跡	平安	
127	通田遺跡	平安	
128	道遺跡	縄文～平安	
129	下窪遺跡	平安	
130	下川原遺跡	平安	
131	金鉢遺跡	平安	
132	上原遺跡	平安	
133	前田遺跡	平安	
135	善明遺跡	縄文	
136	下川原遺跡	平安	
137	宮原遺跡	弥生～平安	
138	神戸遺跡	縄文～平安	
139	神戸古墳	古墳	
140	梅の木遺跡	平安	
141	梨の木遺跡	縄文～平安	
142	内堀遺跡	弥生～平安	
143	北股遺跡	平安	

遺跡	遺跡名	遺跡の時代	備考
145	十火矢遺跡	平安	
146	下迎原遺跡	古墳	
151	東原田遺跡	平安	
152	天神遺跡	弥生～平安	昭和49年上田市発掘
153	山田屋敷遺跡	弥生～平安	昭和49年上田市発掘
154	下川原遺跡平安		
155	一本木遺跡	平安	
156	東村遺跡	平安	
157	中池東遺跡	平安	
158	西又遺跡	平安	
159	下大吹遺跡	平安	
160	源方遺跡	縄文～平安	
161	中雲雀遺跡	平安	
162	入雲雀遺跡	縄文・平安	
166	笹塚遺跡	平安	
168	塚原遺跡	平安	
169	下居守沢遺跡	弥生	
170	下刈又遺跡	縄文・平安	
171	下清水遺跡	縄文～平安	
172	上清水遺跡	縄文～平安	
173	大六遺跡	縄文～平安	
174	下宿在家遺跡	平安	
175	三門寺古墳	古墳	僅かに残る
176	三門寺遺跡	縄文～平安	
177	中村遺跡	縄文～平安	
178	下節月遺跡	弥生・平安	
179	上節月遺跡	平安	
180	町屋二遺跡	縄文・平安	
181	町屋古墳	古墳	
182	東又六遺跡	平安	
183	中二ツ木遺跡	平安	
184	馬場遺跡	平安	
185	郷土田遺跡	縄文～平安	
186	下大郷遺跡	縄文～平安	
187	西奈良尾遺跡	弥生・平安	
188	平井寺古墳	古墳	
189	神田遺跡	弥生・平安	
190	城光寺遺跡	縄文・弥生	
192	宮下遺跡	平安	
193	下吉沢遺跡	縄文～平安	
194	東吉沢遺跡	縄文～平安	
195	西吉沢遺跡	縄文～平安	
196	浅間遺跡	縄文・弥生	
197	三ツ井古墳	古墳	
198	東畑遺跡	平安	
202	南股遺跡	平安	
203	吹上遺跡	縄文・平安	
204	富在家遺跡	弥生～平安	
205	北在家遺跡	縄文・平安	
209	五加遺跡	縄文・平安	
414	小泉曲輪城跡	近世	
423	小牧城跡	近世	
433	海部野城跡	近世	
434	吉沢城跡	近世	

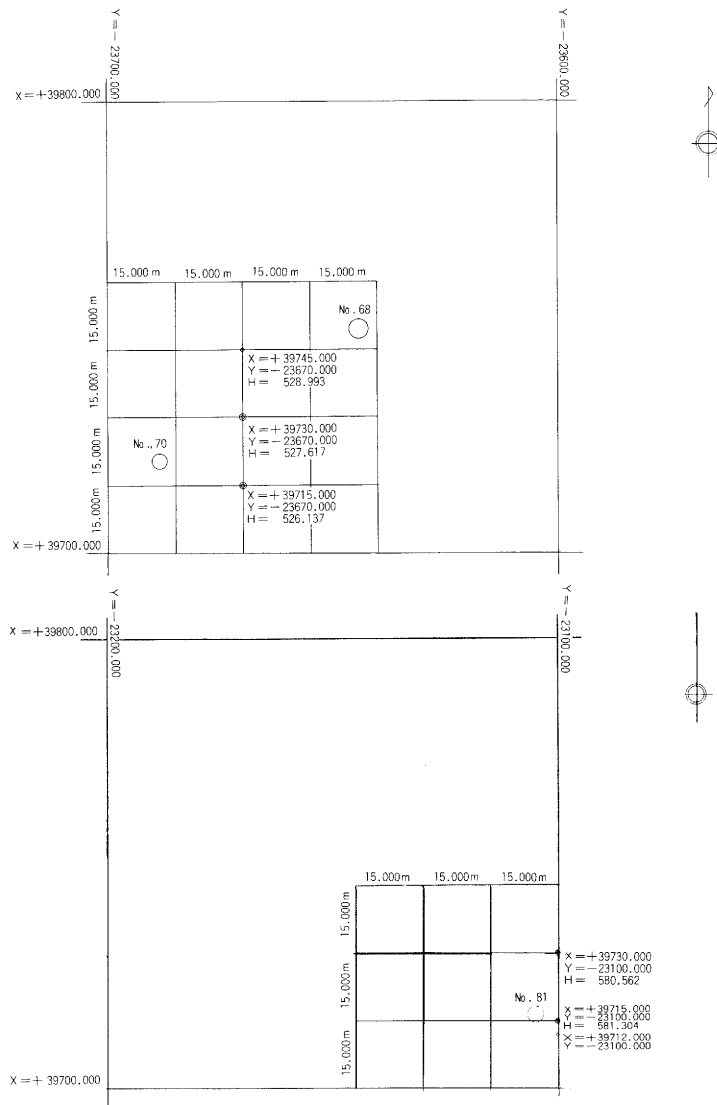
知られている。そして土師器、須恵器などの出土地点はその数をからに増加していることが知られている。しかしこれらの土器類の編年的研究はまだまだ不十分のため、所属年代の決定ができないのが実情である。遺跡の数多いことは自然的な条件に恵まれていたとの推察は容易なことである。

これらの土器を使った人々によって、塩田平の開発は進められ、数多くの古墳が築造され、国造のいたるところであり、一説には創置の国府があったといわれるほどになった。これらの発展が延喜式内社の生島足島神社、塩野神社の創建となっている。

今回調査した「下之郷古墳群」はこのような歴史的経過を証する貴重な文化財といえることができる。そして今日塩田平が「信州の鎌倉」といわれるほどの国宝・重文等の文化財を残している基盤となっているといっても過言ではない。

## 第2節 遺跡の位置

第2図  
第70号  
第81号古墳の位置



# 第三章 調査の結果

## 第1節 第70号古墳の調査

### (1) 遺構

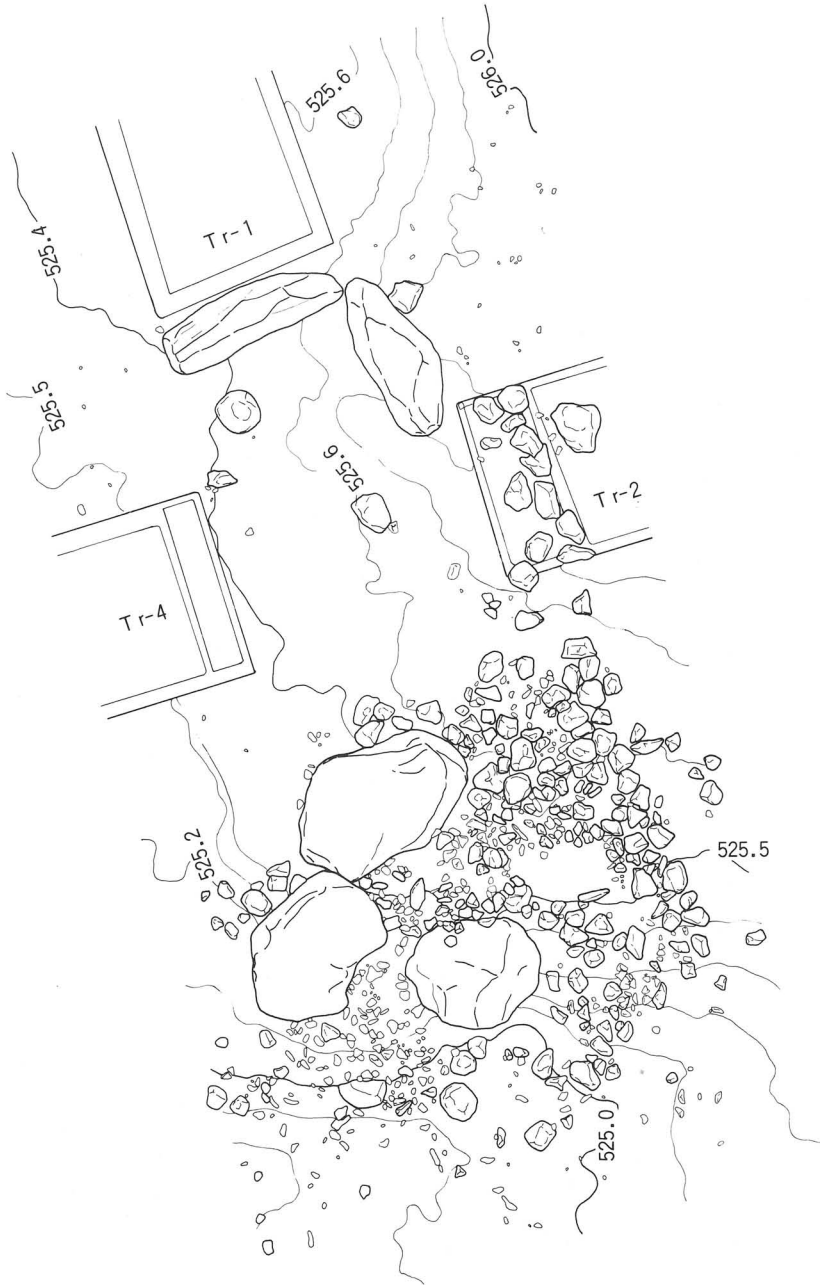
第70号古墳は『下之郷古墳群』(昭和63年上田市教育委員会発行)で雲雀古墳支群の上雲雀3号墳として位置づけられている。所在地は浅間池の東南東方向約300mの丘陵南斜面に所在し、第四章で紹介する第68号古墳の南西約50mの距離を置いた位置関係にある。標高は526mから525mで、丘陵の斜面は該地で南南西に下がっている。なお、『下之郷古墳群』では第69号古墳(上雲雀2号墳)が第68号古墳の南西5mにある可能性を示唆しているが、別途実施された試掘調査でその存在は否定されている。

調査前の状況は、周囲は雑木に覆われており、第二次大戦後一時畑と利用された経過もあり、墳丘は全く残っておらず、奥壁と側壁の最下部、羨道部から向かって石室の右奥のコーナーを残すのみとなっていた。石材は安山岩を用いており、奥壁には垂直方向に断ち割った痕跡がはつきりと残っている。また、羨道部付近と推される箇所には天井石や側壁の構材と思われる1~1.5mの石が3点存在していた他、頭大から拳大の礫が集中していたが、この中には墳丘の構材として用いられていたもののほか、畑地開墾の際に集められたものも多いと考えられる。さらに石室の主体部には高さ4~5mにも達する雑木の根が張り、遺構の遺存状態は著しく悪かった。

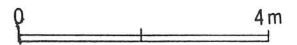
調査ではまずこれ等の除去を行い、次に墳丘の範囲と周溝の確認のため周囲に4本のトレンチを入れた。この結果、Tr-1, Tr-2, Tr-4の石室寄りにおいて、非常に堅緻な、にぶい褐色土層IVが検出されており、あるいは石室を構築する際の基礎として叩いたものかと推察される。周溝についてはいずれのトレンチにおいても該当する落込みは検出されていない。

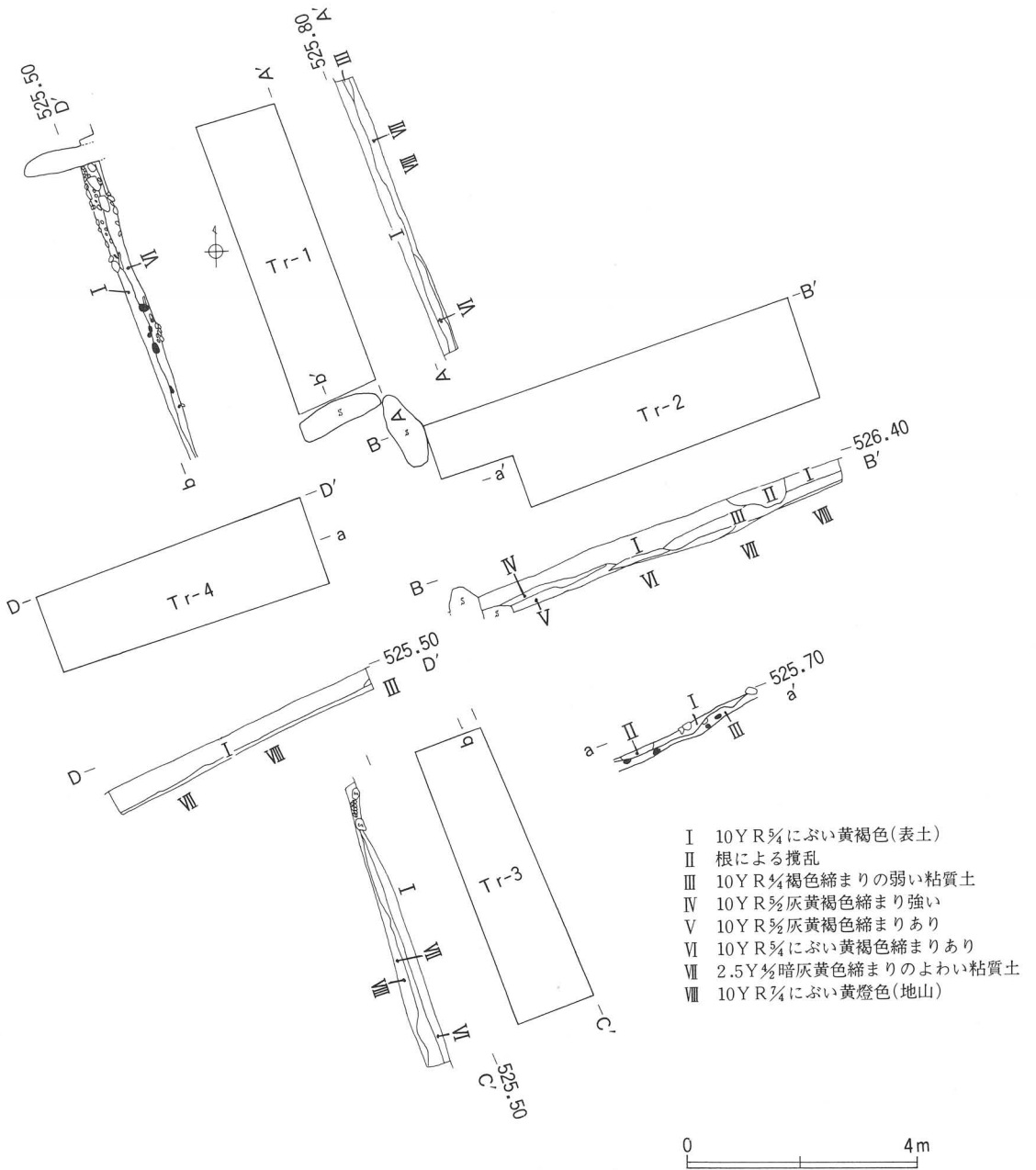
石室内は南北と東西に直行するセクションベルトを残しながら表土を外していった。ここも樹木の根による破壊が著しく、遺構の遺存状態は芳しくなかったが、東側壁の基礎に据えられたとみられる石が2点、表現していた側壁の延長線上に検出された。また、表現している奥壁の2.5m南に奥壁と正対する位置に60×20cmの長方形の石が検出され、石室の区画を示唆している。これから類推すると石室の規模は奥行き2.5m、幅1.5m強の比較的小規模なものであったかと思われ、その主軸方位はN-23°-Wを指す。袖部の形態については推測する材料に乏しいが、存在していたにせよ、さほど長いものは考え難い。石室の床には拳~頭大の礫が敷いたように検出されているが、これが石室の床かあるいは床の下部にあたるかは不明である。

墳丘の規模等についても実証を得られなかったが、今後下之郷古墳群の調査研究が進む中で、同時期の古墳の形態が解明されるのを待つ次第である。

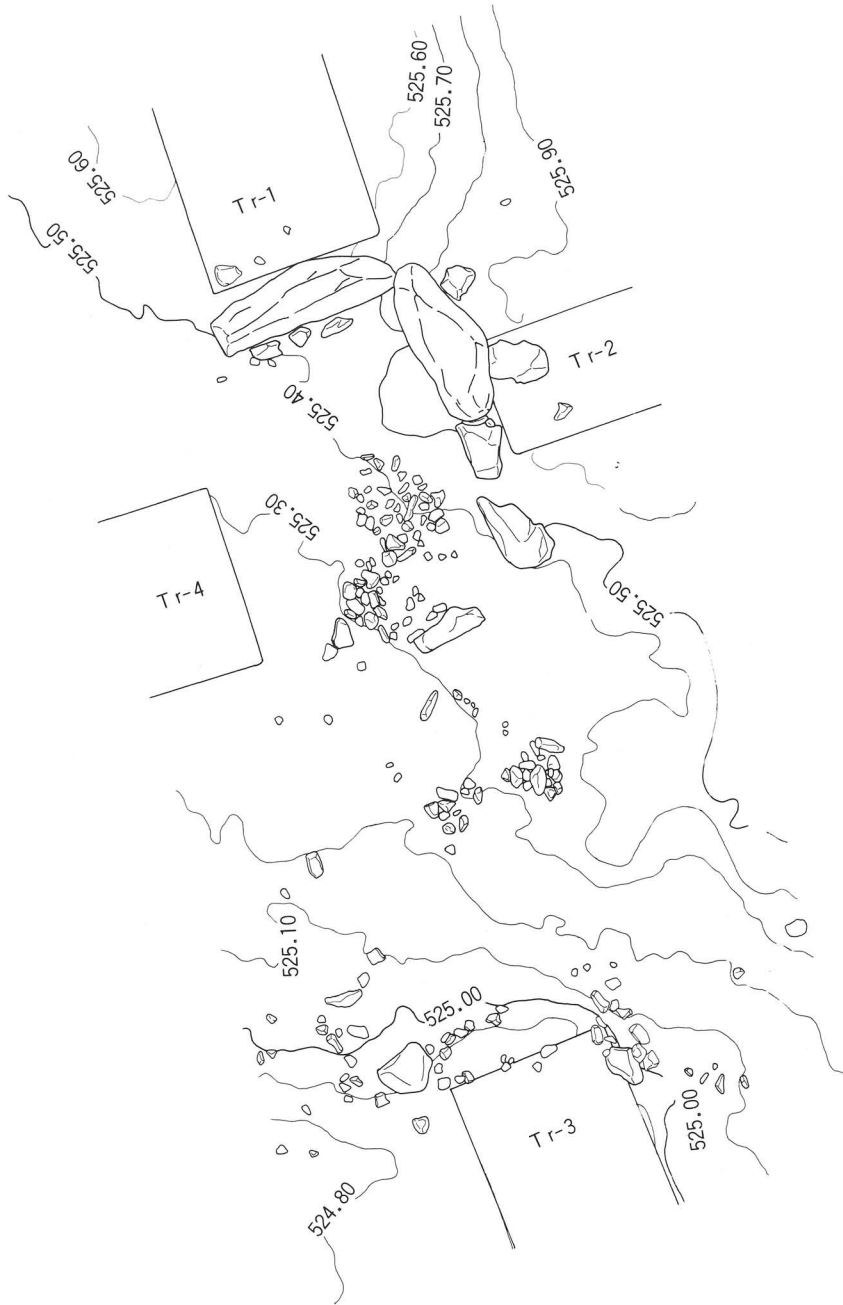


第3図 第70号古墳実測図（調査前）

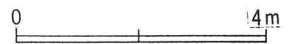




第4図 第70号古墳トレンチ配置及び土層図



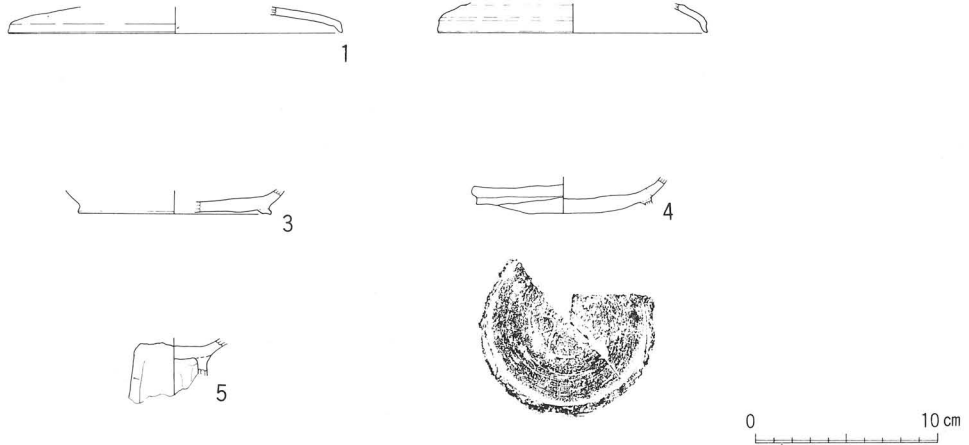
第5図 第70号古墳実測図（調査後）





(2) 遺物

本古墳の調査過程で出土した遺物で図化できたのは須恵木蓋 2 個体・須恵木坏底部 2 個体・土師木高坏 1 個体で、他に近世～現代の陶器・鉄ヤスリ・鉄釘が出土している。



第6図 第70号古墳出土遺物実測図

第2表 第70号古墳出土遺物一覧表

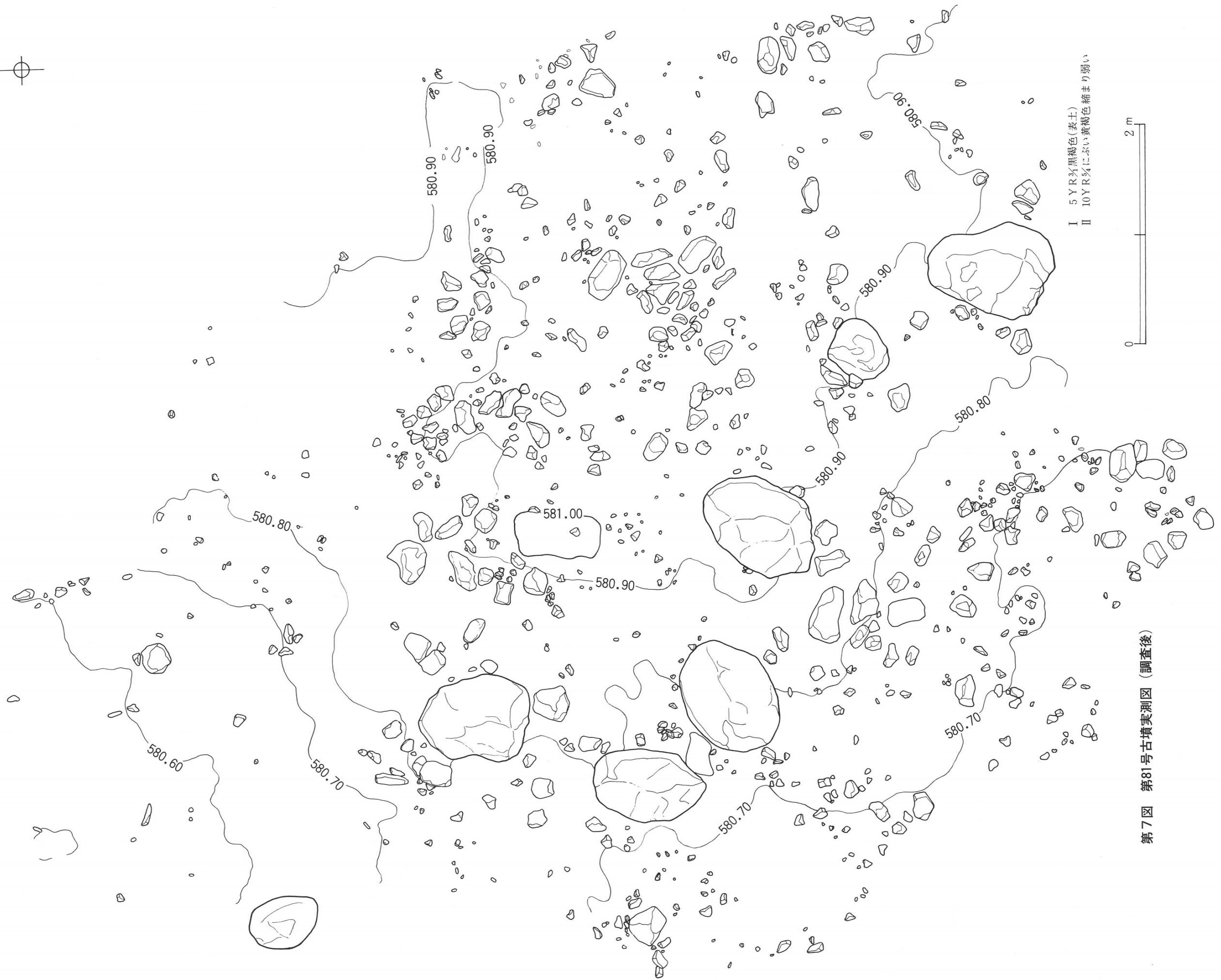
番号	器種類	位置	法	量	器質	成形・形態	整形技法	
							外	内
70-1	蓋 須恵	覆土	残高 1.4 裾径 18.3 裾部 1/2		胎：細砂粒含有 焼：良 色：外5YR6/1灰色 内2.5Y5/1黄灰色	轆轤成型	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考								
70-2	蓋 須恵	覆土	残高 1.6 裾径 14.8 裾部 1/8		胎：細雲母、長石含有 焼：良 色：外N4灰色 内5GY5オリーブ灰色	轆轤成型	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考								
70-3	坏 須恵	覆土	残高 1.3 底径 10.6 底部 1/4		胎：細砂粒含有 焼：良 色：外2.5Y6/1黄灰色 内5Y6/1灰色	付け高台 坏部轆轤成型	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考 轆轤右回転								
70-4	坏 須恵	覆土	残高 1.8 底径(11.6) 底部 3/4		胎：細砂粒含有 焼：良 色：外10YR6/4にぶい黄橙色 内5YR6/4にぶい橙色	付け高台 轆轤成型	轆轤による「撫で」、底部轆轤による糸切り	轆轤による「撫で」
備考 轆轤右回転								
70-5	高坏 土師	覆土	残高 3.3 坏部底径 4.2		胎：細砂粒多く含有 焼：良 色：外7.5YR6/6橙色 内10YR4/2 灰黄褐色		脚部「篋削り」の後「撫で」	脚部内指頭による押圧
備考								

## 第2節 第81号古墳の調査

第81号古墳は『下之郷古墳群』で大平古墳支群の大平2号墳として報告されている。所在地は浅間池の東方向約700mの尾根上の西斜面に所在している。標高は581mから580mである。なお、『下之郷古墳群』では第80号古墳（大平1号墳）が当古墳の西50mにあると報告したが、別途実施された試掘調査でその存在は否定されている。

調査前の状況は、周囲は雑木に覆われており、墳丘は全く残っておらず、石室の構材と推定される4点の安山岩の大石が露出していた。

調査は第70号古墳と同じくまず調査地の樹木を伐採することから始め、古墳の主体部と思われる箇所には4本のトレンチを入れ、そこから順次平面的に表土を剥ぎ、確認を図ったが出土遺物もなく、古墳が築造されていたという確証は遂に得られなかった。



I 5YR 8/1 黒褐色(表土)  
II 10YR 8/4 にぶい黄褐色 縮まり弱い



第7図 第81号古墳実測図(調査後)



第8图 第81号古墳土層図

## 付編 第68号古墳の調査



第9図 第68号古墳実測図

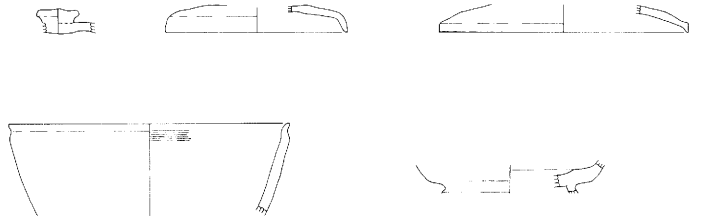
### (1) 遺構

第68号古墳は『下之郷古墳群』で雲雀古墳支群の上雲雀1号墳として位置づけられている。所在地は浅間池の東南東方向約300mの丘陵南斜面に所在し、前述の第70号古墳ノ北東約50mの距離を置いた位置関係にある。『下之郷古墳群』では第69号古墳（上雲雀2号墳）が第68号古墳の南西5mにある可能性を示唆しているが、別途実施された試掘調査でその存在は否定されている。

今回、上田リサーチパークの造成計画内に入っているが、工場宅面の緑地内に現状保存されるため、主体部の発掘は調査実施せず、現況測量と範囲確認のためのトレンチ調査のみを実施した。

調査前の状況は、周囲は雑木に覆われており、第二次大戦後一時畑として利用された経過もあり、墳丘の裾部が削られているものの、遺存状態は良好で、古墳群中でも屈指のものである。調査の結果は第9図に示すとおりである。標高は墳頂部で532.1m、裾部で531.0m前後を計り、墳丘が南西部で落込んでいる。また、墳丘の形態は円墳というよりも方墳に近い形を呈している。

トレンチは裾部から4本、墳丘の中心を通過するように設定して調査を行った。結果は第11図に示したが、Tr-1, Tr-3, Tr-4において周溝の跡が顕著に認められた。Tr-1ではV字形に30cm



第10図 第68号古墳出土・表採遺物実測図 0 10cm

前後の落込みが、Tr-3ではごく浅く12cm、Tr-4では20cm前後の落込みがあった。Tr-2においては確かな検証はなかったが、第IV層が墳丘の裾を指す可能性はある。

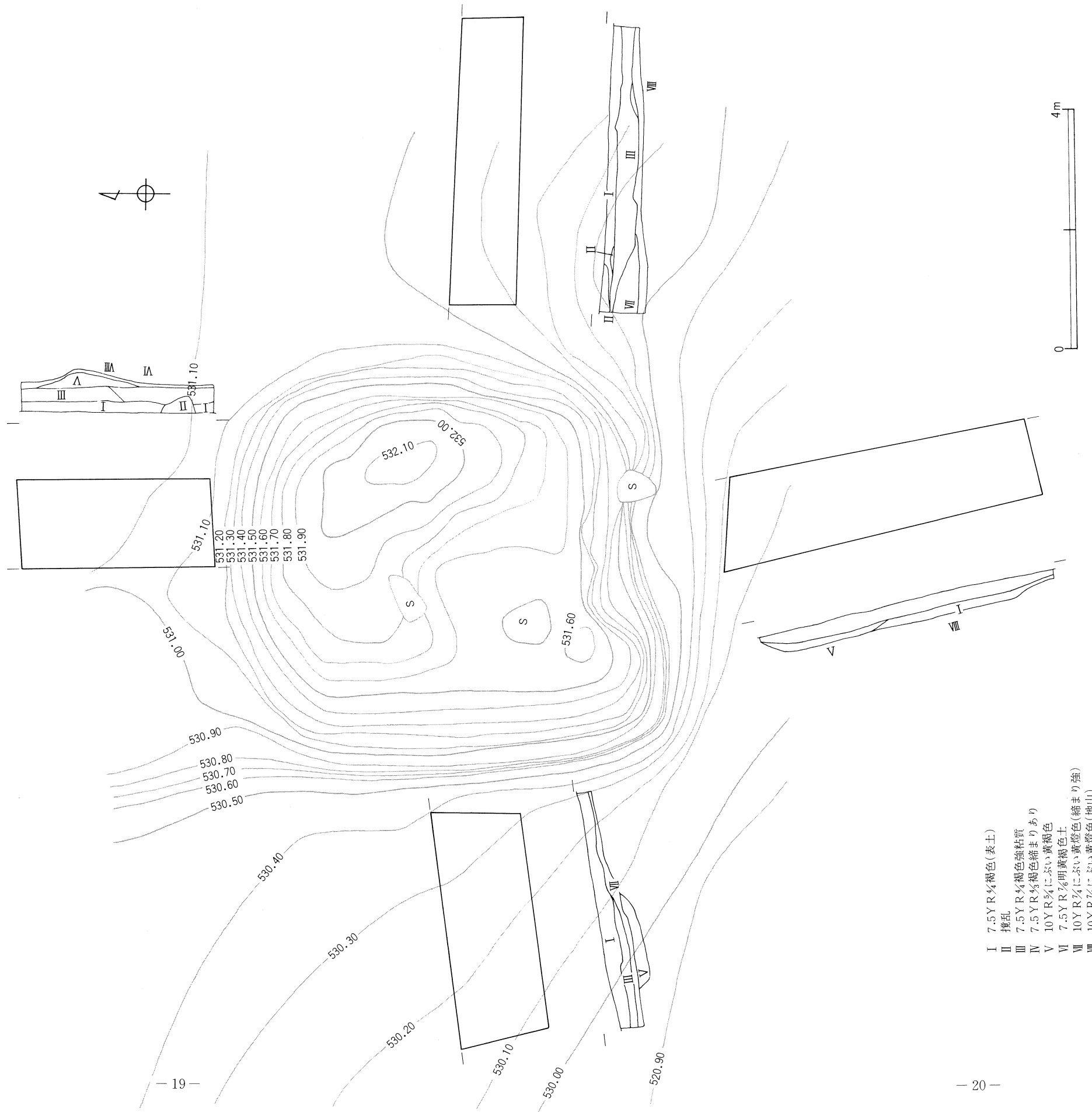
この結果、当古墳の周溝までの範囲は南北径約13.2m前後、東西径約12m強の、墳丘の現存する下之郷古墳群の中では塚穴原1号古墳、他田塚古墳には及ばないものの、それに次ぐクラスの規模を有する。

(2) 遺物

第68号古墳の調査過程で出土・表採した遺物で図示できたのは5点である。いずれもTr-3内、もしくはその表採で、Tr-3付近が前庭部に当たることを示唆している。

第3表 第68号古墳出土・表採遺物一覧表

番号	器種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
68-1	蓋 須恵	Tr-3	抓径 2.3 残高 1.4 抓部のみ	胎：精良 焼：良 色：外2.5YR6/3に ぶい黄色 内10Y6/1灰色	扁平な擬宝珠形を呈 する。	轆轤による「撫 で」	轆轤による「撫 で」
備考 外面に自然釉がかかる							
68-2	蓋 須恵	Tr-3	残高 10.0 据径 1.5 据部 1/10	胎：0.2未満の黒色 粗砂粒含有 焼：良 色：外内5Y5/1灰色	轆轤成型	轆轤による「撫 で」	轆轤による「撫 で」
備考							
68-3	蓋 須恵	前庭 表採	残高 1.5 据径 14.8 据部 1/12	胎：細砂粒混 焼：良 色：外2.5Y6/2灰黄 色 内10Y6 灰 色	轆轤成型	轆轤による「撫 で」	轆轤による「撫 で」
備考							
68-4	坏 須恵	前庭 表採	口径 15.5 残高 5.1 口縁部～体 部1/10	胎：精良 焼：良 色：外10YR4/1褐灰 色 内2.5YR4/1 赤灰色	轆轤成型 口唇部「くの字」状 に屈曲する。	口唇部横位の「撫 で」、口唇部 体部轆轤による 「撫で」	口唇部横位の「撫 で」、口唇部 下刷毛状工具に よる轆轤の「撫 で」、体部轆轤 による「撫で」
備考							
68-5	坏 須恵	Tr-3	高台径7.6 残高 1.6	胎：細雲母混 焼：良 色：外N5/灰色 内N6/灰色	付け高台 轆轤成型	坏部下位篋状工 具による轆轤の 「削り」 高台部「撫で」	轆轤による「撫 で」
備考							



- I 7.5YR $\frac{1}{4}$ 褐色(表土)
- II 攪乱
- III 7.5YR $\frac{1}{4}$ 褐色強粘質
- IV 7.5YR $\frac{2}{4}$ 褐色粘まりあり
- V 10YR $\frac{1}{4}$ にぶい黄褐色
- VI 7.5YR $\frac{2}{4}$ 明黄褐色土
- VII 10YR $\frac{1}{4}$ にぶい黄橙色(粘まり強)
- VIII 10YR $\frac{1}{4}$ にぶい黄橙色(地山)

第11図 第68号古墳トレンチ配置及び土層図

下之郷古墳群一覽表

番号	古墳名称	所在地	墳形	墳丘規模 (m)			石室形態	備考
				南北径	東西径	高さ		
1	前中山1号墳	山頂	円墳	17.0	15.0	1.2	不明	855前中山古墳 直刀出土
2	" 2号墳	尾根	"	12.0	9.0	1.1	横穴式?	"
3	物見山1号墳	山頂	"	7.5	7.5	0.7	不明	
4	" 2号墳	尾根	"	5.0	5.5	0.6	"	
5	" 3号墳	"	"	6.5	5.5	0.8	"	
6	紅平1号墳	"	円墳?	—	—	—	横穴式?	
7	" 2号墳	山腹	円墳	9.0	8.0	1.2	横穴式	
8	" 3号墳	"	"	6.5	6.5	0.8	不明	
9	" 4号墳	"	"	8.0	15.0	2.0	"	
10	" 5号墳	"	"	—	—	—	"	
11	" 6号墳	"	"	10.0	10.0	1.2	横穴式	
12	" 7号墳	"	"	8.5	11.5	1.1	不明	
13	" 8号墳	"	"	7.0	8.3	1.5	"	
14	" 9号墳	"	"	11.0	11.0	1.0	"	
15	" 10号墳	山沢	不明	—	—	—	"	
16	" 11号墳	"	"	—	—	—	"	
17	" 12号墳	"	円墳	10.0	8.5	1.4	"	
18	" 13号墳	山腹	"	5.5	5.5	1.0	横穴式	
19	" 14号墳	"	"	9.5	9.5	3.0	"	
20	下堂寺1号墳	山麓	円墳?	(—)	(—)	(—)	不明	804 下堂寺古墳 煙滅?
21	" 2号墳	山沢	円墳	17.0	15.0	1.4	横穴式	
22	" 3号墳	"	"	—	—	—	不明	
23	小森山1号墳	尾根	"	12.0	11.0	1.0	"	801 紅平山1号墳
24	" 2号墳	"	"	6.5	6.5	0.5	"	802 " 2号墳
25	" 3号墳	"	"	12.5	12.5	1.0	"	803 " 3号墳
26	東山1号墳	山頸	"	(6.4)	(6.4)	(—)	"	805 東山古墳 煙滅?
27	" 2号墳	山沢	"	14.0	14.0	1.4	横穴式	須恵器片出土
28	" 3号墳	山腹	円墳?	(9.5)	(9.5)	(1.6)	横穴式?	811 明神平1号墳 煙滅?
29	" 4号墳	"	"	(9.0)	(9.0)	(1.7)	"	812 " 2号墳 "
30	" 5号墳	"	不明	(—)	(—)	(—)	不明	813 " 3号墳 "
31	" 6号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	814 " 4号墳 "
32	" 7号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	815 " 5号墳 "
33	" 8号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	816 " 6号墳 "
34	" 9号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	817 " 7号墳 "
35	" 10号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	818 " 8号墳 "
36	" 11号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	819 " 9号墳 "
37	" 12号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	820 " 10号墳 "
38	" 13号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	821 " 11号墳 "
39	" 14号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	822 " 12号墳 "
40	" 15号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	823 " 13号墳 "
41	" 16号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	824 " 14号墳 "
42	" 17号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	825 " 15号墳 "



番号	古墳名称	所在地	墳形	墳丘規模(m)			石室形態	備考
				南北径	東西径	高さ		
43	東山18号墳	山腹	不明	(—)	(—)	(—)	不明	826 明神平16号墳 煙滅?
44	" 19号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	827 " 17号墳 "
45	" 20号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	828 " 18号墳 "
46	" 21号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	829 " 19号墳 "
47	" 22号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	830 " 20号墳 "
48	" 23号墳	"	"	(18.0)	(18.0)	(—)	"	831 " 21号墳 "
49	" 24号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	832 " 22号墳 "
50	" 25号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	833 " 23号墳 "
51	" 26号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	834 " 24号墳 "
52	" 27号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	835 " 25号墳 "
53	" 28号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	836 " 26号墳 "
54	" 29号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	837 " 27号墳 "
55	" 30号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	838 " 28号墳 "
56	" 31号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	839 " 29号墳 "
57	" 32号墳	"	円墳	18.0	15.0	2.2	横穴式	明神平1・2号墳?
58	" 33号墳	"	不明	—	—	—	不明	明神平21号墳?
59	" 34号墳	山沢	"	—	—	—	"	明神平22~29号墳?
60	" 35号墳	"	"	—	—	—	"	明神平22~29号墳?
61	他田塚古墳	山麓	円墳	18.5	17.2	4.0	横穴式	806 他田塚古墳昭和47年発掘調査
62	塚穴原1号墳	"	"	20.5	21.5	3.3	"	807 塚穴原1号墳昭和50年発掘調査
63	" 2号墳	"	"	15.0	12.5	1.7	横穴式?	808 " 2号墳
64	" 3号墳	"	円墳?	(—)	(—)	(—)	不明	809 " 3号墳 煙滅
65	" 4号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	810 " 4号墳 "
66	宮原1号墳	"	円墳	7.2	7.2	1.4	"	840 宮原1号墳
67	" 2号墳	"	"	7.0	7.0	1.3	"	841 " 2号墳
68	上雲雀1号墳	丘陵	"	8.7	8.0	1.5	横穴式	842 上雲雀1号墳
69	" 2号墳	"	不明	—	—	—	不明	843 " 2号墳
<b>70</b>	<b>" 3号墳</b>	"	"	—	—	—	<b>横穴式</b>	<b>844 " 3号墳</b>
71	下雲雀1号墳	"	円墳	7.0	8.0	1.5	不明	845 中雲雀古墳
72	" 2号墳	山麓	円墳?	(—)	(—)	(—)	"	煙滅
73	入雲雀1号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	煙滅?
74	" 2号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	"
75	浅間原古墳	"	"	(—)	(—)	(—)	横穴式	846 浅間原古墳 煙滅?
76	夫婦古墳	"	"	(—)	(—)	(—)	不明	煙滅?
77	笹塚古墳	"	"	(—)	(—)	(—)	横穴式	847 笹塚古墳 煙滅
78	塚原1号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	848 塚原1号墳 煙滅
79	" 2号墳	"	"	(—)	(—)	(—)	"	849 " 2号墳 "
80	大平1号墳	尾根	不明	—	—	—	不明	
<b>81</b>	<b>" 2号墳</b>	"	"	—	—	—	"	
82	" 3号墳	"	"	—	—	—	"	
83	" 4号墳	"	円墳	—	—	—	横穴式?	
84	下布引古墳	山麓	不明	—	—	—	不明	



# 写 真 图 版



○81号古墳

塚原1号墳

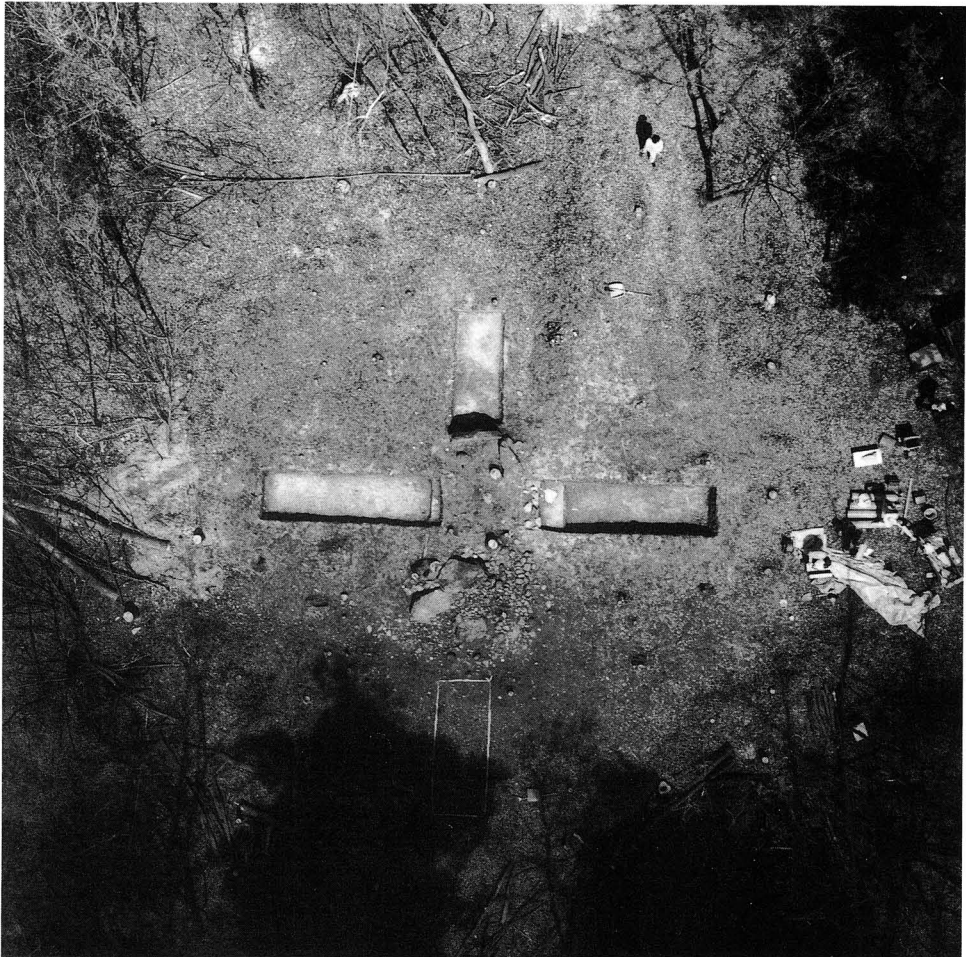
他田塚古墳

○68、70号古墳

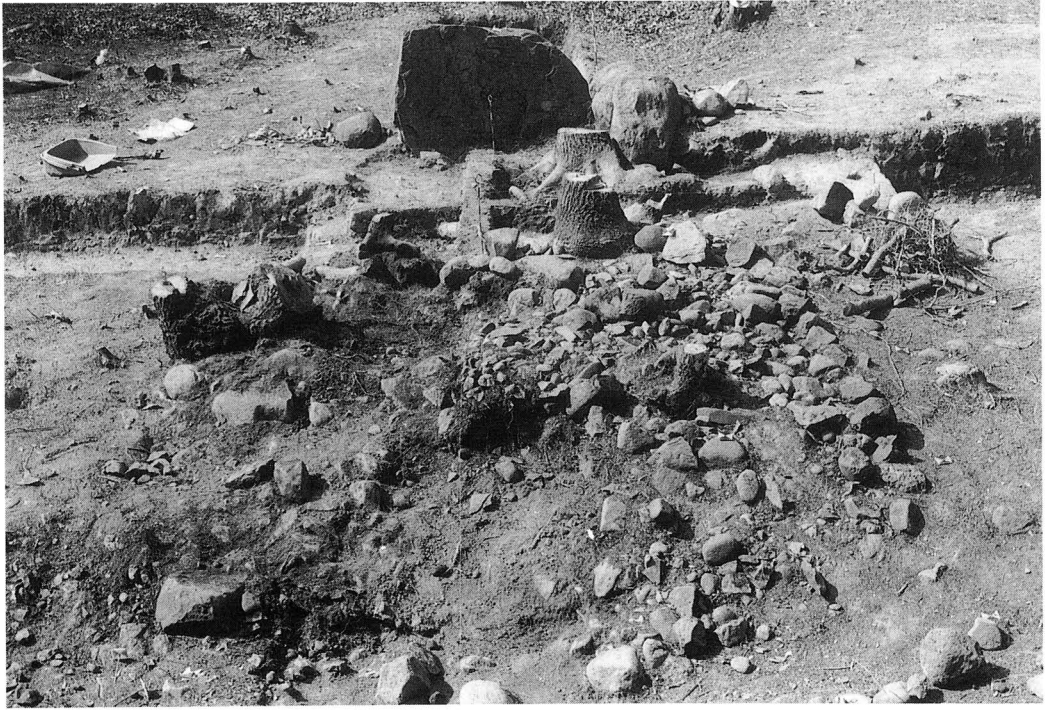
PL. 1 下之郷古墳群遠景



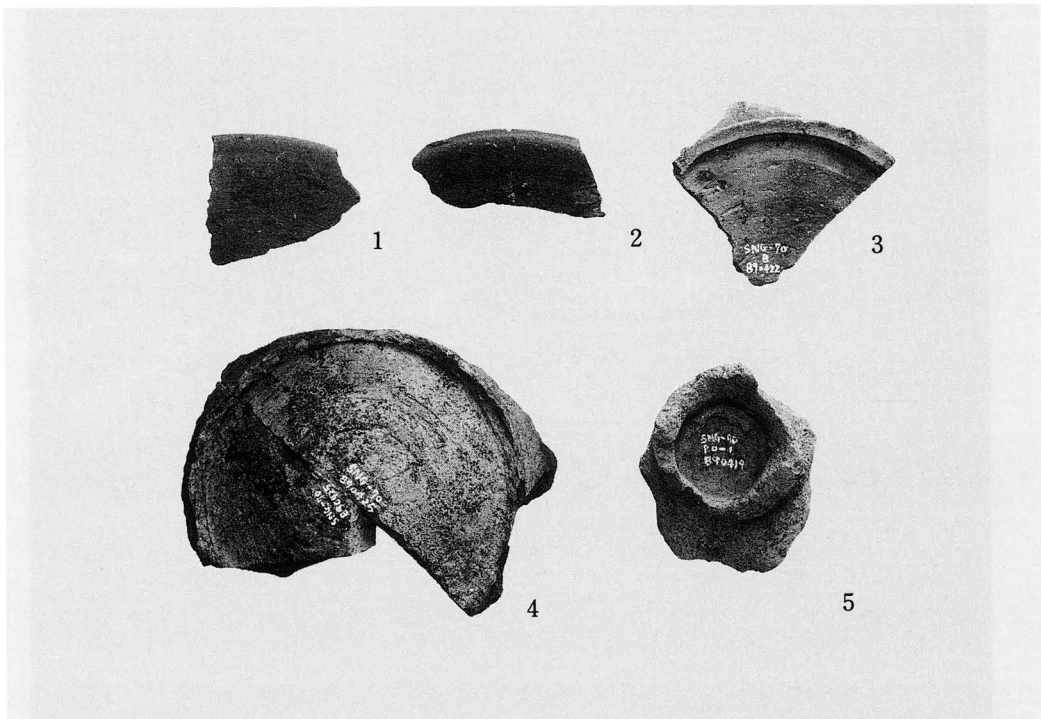
PL. 2 第70号古墳調査前



PL. 3 第70号古墳調査前（天井石等除去後）



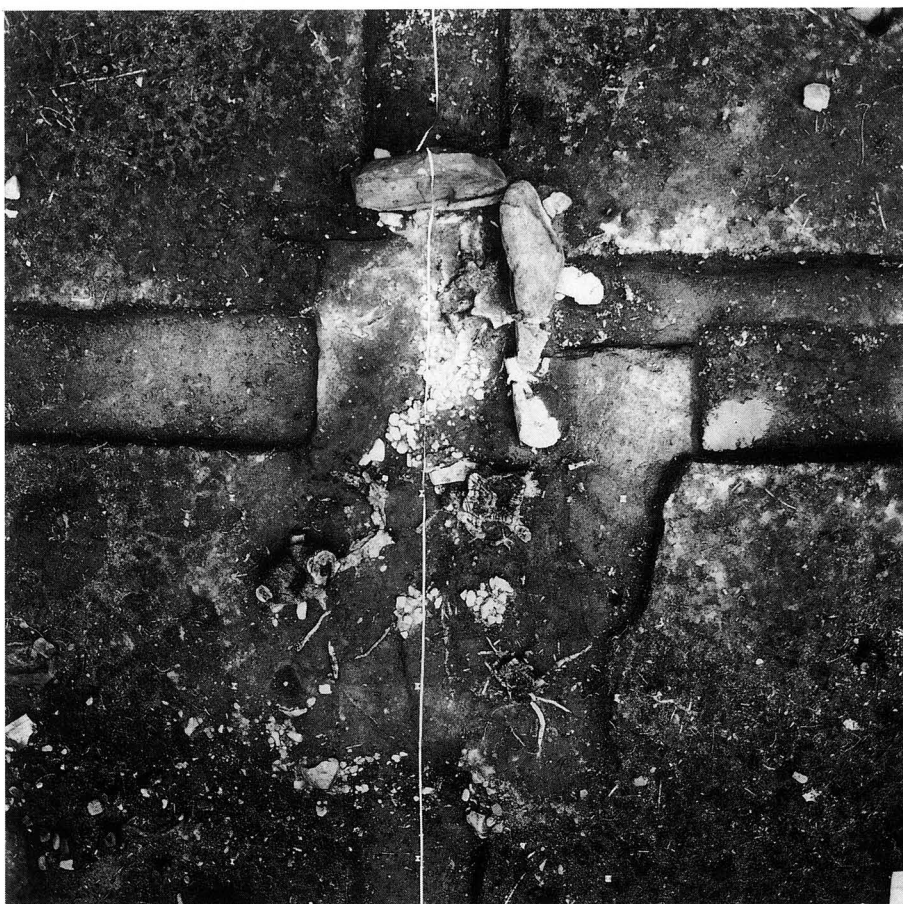
PL. 4 第70号古墳調査（天井石等除去後）



PL. 5 第70号古墳出土遺物



PL. 6 第70号古墳調査後



PL. 7 第70号古墳調査後



PL. 8 第81号古墳調査後

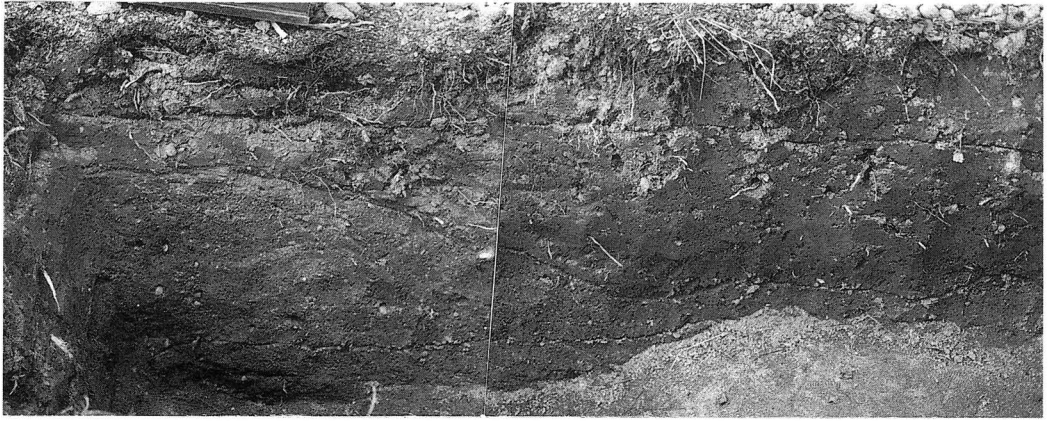


PL. 9 第68号古墳現況





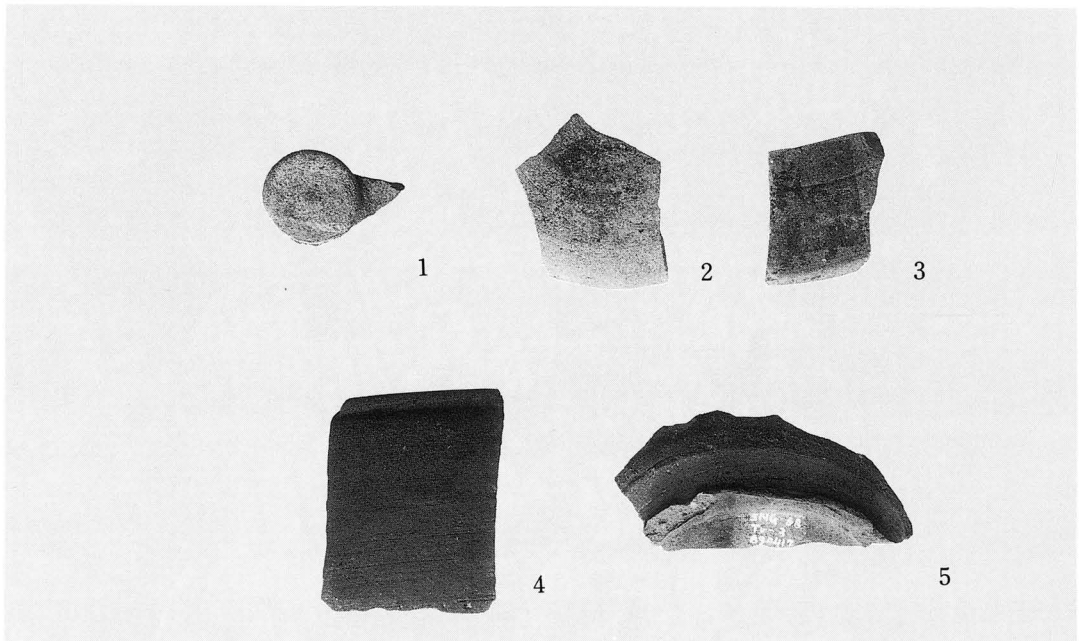
PL. 10 第68号古墳Tr-1土層



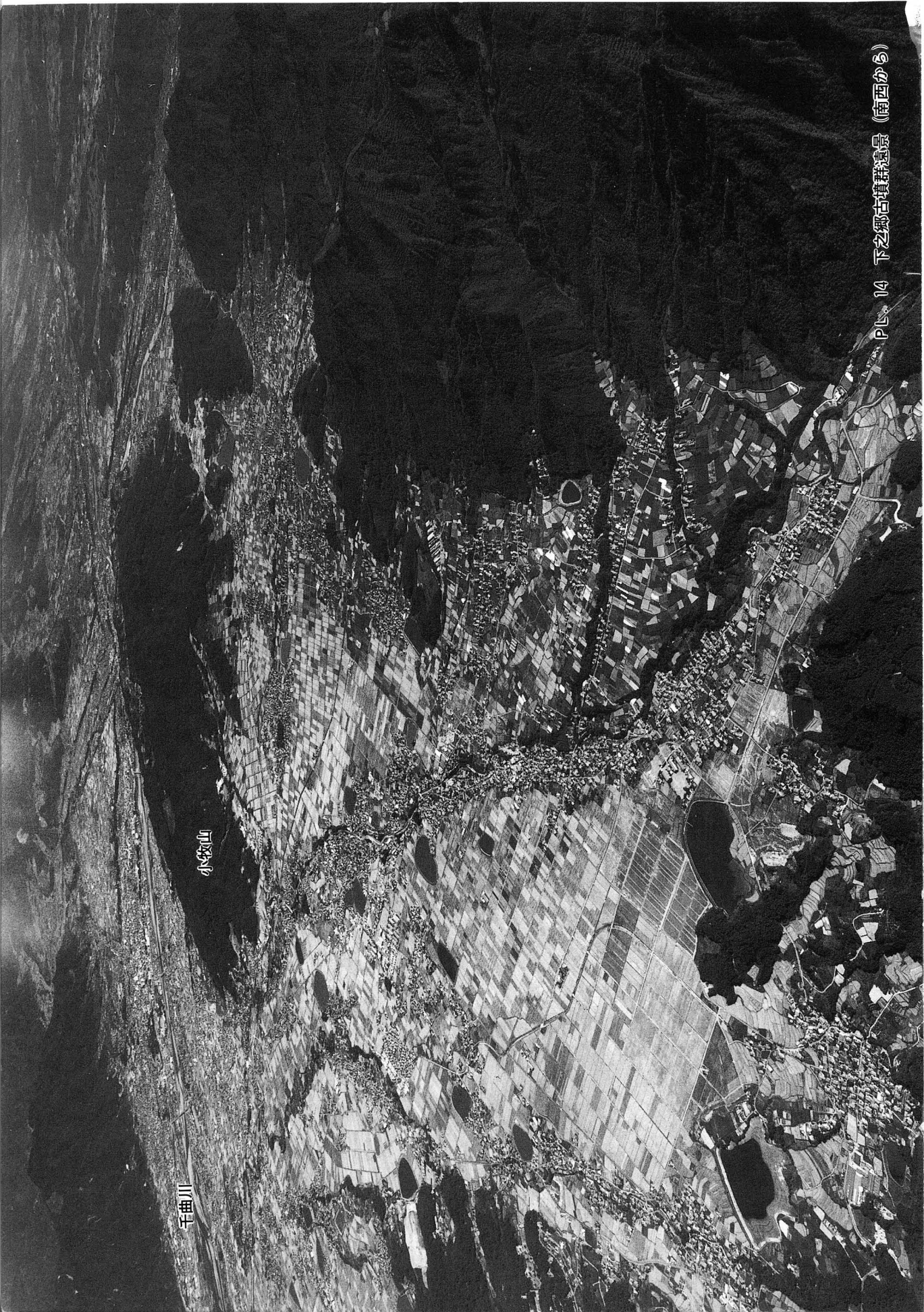
PL. 11 第68号古墳Tr-2土層



PL. 12 第68号古墳Tr-4土層



PL. 13 第68号古墳出土遺物



千曲川

小牧山

---

上田市文化財調査報告書 第36集

下之郷古墳群Ⅱ

発行 平成2年3月25日

上田市教育委員会

印刷 出口印刷株式会社

---

# 下之郷古墳群分布図



国有林

ゴルフ練習場  
上田市農林ハイテクセンター  
駐車場  
アーチェリー場

自然運動公園  
自然運動公園  
プール  
プール  
グランド  
駐車場

テニスコート  
長野大学グランド

S = 1 : 5,000

500m